

FUEK

vol. 78



多様な主体による多彩な活動127件に

総額3000万円

2022年度「教育文化活動助成」の対象者は127件、助成総額は3000万円に決定しました。応募件数は216件、今回から電子申請システムを利用した申請でしたが、昨年度より約20%の増となりました。初めて申請するという団体・個人は約40%でした。

採択率は、未だコロナ禍で活動の予定が立てづらい中での意欲ある申請と考え、例年45%のところ55%と高く設定し、助成予算は2800万円から3000万円としました。

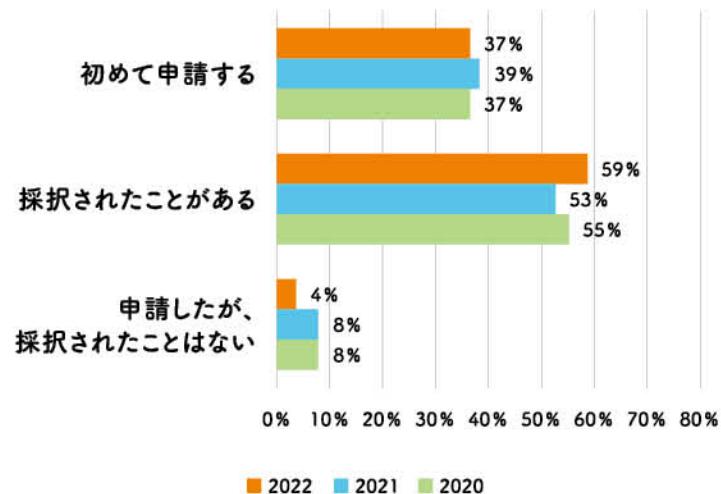
助成対象者と助成財団は同じ目的を達成するためのパートナーです。フォローアップ（資金以外の支援）でのサポートも積極的に取り組んでいきます。

2022年度市町村別採択件数

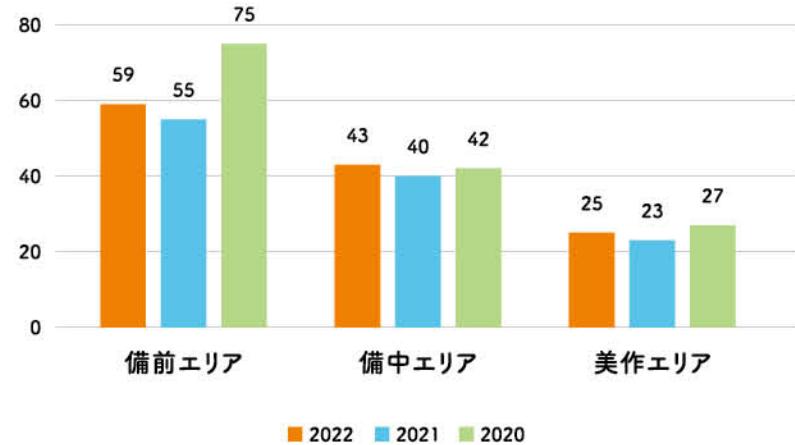


申請書アンケート

Q.これまでに公募助成に申請したことがありますか



エリア別採択数



2022年度 教育文化活動助成 対象者一覧

1 備中と道トレイル推進協議会	10 フルート・ソロイストOKAYAMA
2 OKUTSU芸術祭実行委員会	11 つやま演劇教育研究会
3 岡山県立岡山御津高等学校 探究学習検討委員会	12 オペラプラザ岡山
4 560の夢プロジェクト実行委員会	13 鏡野鶴喜こども鉄太鼓
5 レブタイル株式会社 TTTこどもパソコンプログラミング教室	14 白石踊会
6 教育有志団体 manabo-de	15 北房ホタル保存会
7 岩井 智幸	16 巨瀬小学校地域参画プロジェクトチーム
8 岡山市立岡山後楽館高等学校まちなかのふるさと教育実行委員会	17 津山高専・つやまたたらの会
9 遊美工房 幼稚園プログラムプロジェクト	18 放送大学生団体 科学わくわくクラブ

笠岡市

笠岡高校 小野竹喬広め隊

「モザイクアート」で小野竹喬の作品を再現しよう!

設立年 2020年7月



(左から)中濱寿菜さん・藤井愛香里さん・馬屋原涼葉さん・森岡風佳さん



竹喬作品をモザイクアートで

1年生の探究学習の時間に竹喬美術館の来館者の増加や認知度向上に焦点をあてた課題に取り組みました。課題解決に向けたアイディアを提案しましたが、実際にやってみたいと思い申請しました。採択されてやっとスタート地点に立った感じです。4月からラインスタグラムでの発信も始めました。地域の方々と協力して集めた

写真でつくるフォトモザイクアートを、ぜひ見に来てください。

岡山市

渋川ユニバーサルビーチ プロジェクト

障がいを持った子どもたちの体験格差を
補うためのアクティビティ体験活動

設立年 2018年6月



藤原 智貴さん

支援学校でお話をさせていただいたとき、約30名の生徒が全員海に行つたことがなく、行ってみたいと思つてることに衝撃を受けました。障がいをもつた子どもたちにいろいろな経験をしてもらいたいと申請しました。助成希望額は減額になりましたが、縮小しても活動はやります。同時に渋川海岸のユニバーサルビーチ化を図り、そこから共生社会づくりを目指しています。

障がいをもつた 子どもたちに海の体験を

初めて申請して採択された助成対象者の声をお届けします。

2022年度 教育文化活動助成 対象者一覧

- 19 まび創成の会
- 20 よりしま魅力化推進協議会
- 21 高校生地域ふくし実行委員会
- 22 大茅地区活性化協議会
- 23 糸あやつり人形劇団「つきみ草」
- 24 一般社団法人 岡山県美術家協会
- 25 特定非営利活動法人Pro Bono Rehabilitation Services
- 26 パブリックアートを蘇生する会
- 27 濑戸内市民芸術祭実行委員会
- 28 劇団こすもす
- 29 岡山県立玉野光南高等学校 ぶろぐ☆ラボこうなん
- 30 「月の輪の心を語り継ぐ会」
- 31 菊桜育成保存会
- 32 邑久高等学校セトリー運営指導委員会
- 33 日比中学校 キャリア教育推進チーム
- 34 美咲桃太郎の会
- 35 田賀屋狂言会
- 36 Coro Piacere
- 37 コールゆうぶんげん
- 38 一般社団法人SGSG
- 39 特定非営利活動法人オリーブの家
- 40 岡山高等学校探究クラス コメ作り×エシカル消費プロジェクト
- 41 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター
- 42 一般社団法人WOLFING
- 43 芳明っ子文庫
- 44 公益財団法人 新見美術振興財団
- 45 岡山バッハカンタータ協会
- 46 特定非営利活動法人f.salon
- 47 備前里海・里山応援団
- 48 清心中学校・清心女子高等学校・倉敷青年会議所 理界村実行委員会
- 49 合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会
- 50 東備対話プロジェクト
- 51 任意団体 デザインゴールズ実行委員会
- 52 一般社団法人にいみ木のおもちゃの会
- 53 岡山県立高梁高等学校 方谷学実施委員会
- 54 杜の学校研究会
- 55 玉野【里山★玉仙岩】の会
- 56 岡山弁協会
- 57 Predygier Radoslaw
- 58 岡山県高齢者福祉生活協同組合
- 59 「ひとのもの・こと」とつながる 佐伯小夢プロジェクト
- 60 Life3091
- 61 渋川ユニバーサルビーチプロジェクト
- 62 リボンの会
- 63 明神鼻の小屋実行委員会
- 64 倉敷シティバレエ
- 65 荘原地区まちづくり協議会子育てサポート部会
- 66 飛島ガーディアンプロジェクト
- 67 一般財団法人桃太郎少年合唱団
- 68 謝 芯怡
- 69 コンシーデレ山手
- 70 総社土曜大学
- 71 岡山楷の木少年少女合唱団
- 72 一般社団法人はれとこ
- 73 HOME18岡山
- 74 一般社団法人 岡山に夜間中学校をつくる会
- 75 あかいわアートラー実行委員会
- 76 国工のキラリをみつける会
- 77 新見公立大学 むすびの会
- 78 CAN-Science
- 79 玉野しおさい狂言会
- 80 第5回森のゆうえんちinにいみ実行委員会
- 81 ジーンズミュージカル制作委員会
- 82 NATURE TALK
- 83 がくまび
- 84 「ふくしのえんがわ」実行委員会
- 85 特定非営利活動法人法人まんなか
- 86 (市民団体)月下舞踏会M
- 87 岡山映画祭実行委員会
- 88 禅と工藝と暮らしの文化実行委員会
- 89 エディブル・エデュケーション岡山研究会
- 90 劇団ひびき
- 91 岡山市立岡山中央中学校だっぴ実行委員会
- 92 岡山参加型ミュージカル実行委員会
- 93 岑岡高校小野竹喬広め隊
- 94 百々人形保存会
- 95 子どもの心と身体の発達を外遊びを通して考える会
- 96 合同会社わっしょいボヘミアン
- 97 Nagi国際交流ネットワーク
- 98 蒜山ミライ会議
- 99 南 順子
- 100 コノヒトカンプロジェクト
- 101 津山市子どもまつり実行委員会
- 102 MSB30
- 103 高梁音楽祭実行委員会
- 104 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会
- 105 NPO法人真庭あぐりガーデンプロジェクト
- 106 千屋牛追唄地元保存会
- 107 上南歴史を伝える会
- 108 ノートルダム清心女子大学
- 109 みんなの商店街プロジェクトチーム
- 110 作州耕保存会
- 111 年齢や所属を超えて語り合う場「F-cafe」
- 112 ぬかづるとこ
- 113 このゆびとまれ
- 114 彦崎地区伝統文化・文化財保存会
- 115 玉野高校地域連携推進チーム
- 116 アグリ魅力化志援会
- 117 日本で最も美しい村の小さな学び舎 けんもりOriHime研究会
- 118 備前福岡の市園地産地消推進協議会
- 119 はっぴーすたんど (略称:はびすた)
- 120 Fukiya design.
- 121 お山のおうちえん
- 122 ありがとうファーム チームHUB Lab.
- 123 天神幕劇
- 124 玉島ARTプロジェクト(たまプロ)
- 125 倉敷市真備創作舞台育成事業実行委員会 マービーミュージカルin倉敷
- 126 鹿子の木会長舗邸
- 127 地域資源を生かす高校生コンソーシアムKURASHO

新見市

千屋牛追唄地元保存会

「千屋の産業振興のために、2人体制での尺八演奏」



設立年 2020年4月

竹本泉さん(左)竹本洋子さん(右)



伝統の牛追い歌を次世代へ

地域文化である民謡「千屋牛追唄」の継承と普及の活動ですが、助成金の使途が尺八の購入でしたので、助成の対象となるかまず事務局に電話して聞きました。その後も、わからないことは何度も聞きながら、申請にこぎつけました。労働の中から生まれた千屋牛追唄が地域の誇りとして受け継がれるよう、また千屋牛の応援団として地域産業を盛り上げていきたいと思います。

久米南町

このゆびとまれ

「Kumenan Enjoy Club」

設立年 2021年5月



明楽香織さん

高校生と大学生で遊び場づくり

地元の高校生や大学生が、地元の子どもたちのために遊びの場をつくる取り組みです。タテ・ヨコの関係ではなくナナメの関係から学校や家庭だけでは得られない新しい価値観に出会ったり、視野を広げる機会になつたらいいなと思っています。昨年は町の補助金はで活動しましたが、助成対象期間が6月からになるので、今年度は4月から活動したいと思い助成申請に挑戦してみました。

里庄町

菊桜育成保存会

「佐藤清明ゆかりの菊桜の保護・周知活動」

設立年 2018年6月



生宗脩一さん(左)小野礼子さん(右)

妖怪事典出版の佐藤清明を伝えたい

日本で初めての妖怪事典を出版した里庄町出身の博物学者佐藤清明ゆかりの菊桜の保護と周知活動を4年続けてきましたが、ひろがりがみられず、行き詰まりかけしていました。そこで、新しい展開のきっかけになればと申請しました。苦手な情報発信や新たな連携について、採択されたいいろいろな活動を参考にしたいと思います。菊桜が地域の誇りとなるよう頑張りたいと思います。

申請するあたり自分たちの活動は何を目指すのかを改めて考えました。このようなことをしたい!といった青写真を申請書に落とし込む時間は、思考を整理するとしても貴重な時間となりました。これまでの活動で、地域文化を支える素晴らしい活動が数多く存在することも知りました。そのような活動の結果に至るまでの過程もしっかり発信し、多くの方に知つていただけるよう取り組みます。



まちづくりにWebメディア活用



戸井健吾さん

倉敷市

一般社団法人はれとこ

「webメディアを活用した
教育・文化普及活動を通じたまちづくり」

設立年 2020年7月

倉敷市

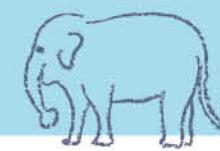
NATURE TALK

「自然・野生動物保護新聞『NATURE TALK』発行

設立年 2021年6月



沖縄県人さん



環境保護に興味を持つきっかけを

申請した理由は2つあります。環境配慮の紙（FSC®認証紙）で発行したいことと、もっと多くの人に知りたいので発行部数を増やしたいと思ったからです。また助成を受けると成果報告の機会があったり、機関誌「EEN」にも同封してもらえるので、より広く発信できると思いました。この新聞を通して、世界の環境や身の回りの環境に興味を持つてもらえたなら嬉しいです。

新庄村

日本で最も美しい村の小さな学び舎

「田舎の知恵と自然に学ぶ「大自然の小さな基地」づくり1年目」

設立年 2021年4月



白井崇来人さん(左)山本幸さん(右)

豊かな自然生かしたプログラムづくり

スタートアップの活動を応援してくれる安心感と同時に責任感を覚えました。助成を受けて活動することは、微力な活動でも、社会に貢献できるシステムですので、とてもやりがいを感じます。新庄村の豊かな自然環境をフィールドに年間を通じた自然体験のプログラムに取り組みます。持続可能で循環型の田舎暮らしに学ぶ場を提供し、知恵の伝承、次世代の育成を担いたいと思います。

広く市民の活動を支える場を

コロナ禍が続く中で文化活動の意欲がなくなったり、活動そのものをやめていく団体をたくさんみてきました。このままでは瀬戸内の市の芸術文化の灯が消えてしまうのではと奮起して団体を設立しました。瀬戸内市在住のプロアマを問わせ、活動意欲を高めたり、活動を再開させたり、新たな活動が生まれることを期待しています。

瀬戸内市

瀬戸内市民芸術祭実行委員会

「市民が創る市民のための芸術祭と市民の手元に届く情報発信」

設立年 2021年7月



津山市

津山市子どもまつり実行委員会

「すなばあそび再生プロジェクト」

設立年 1966年4月



(左から)岡田章裕さん・森安恵津子さん・春名成実さん

砂場を子どもたちの交流の場に
市から委託事業として2019年「すなばあそび再生プロジェクト」として取り組みましたが、活動を継続したいと思い申請しました。砂場は子どもたちの交流の場であり、知育や身体能力の向上の場で、教育的価値の高い資源だと思っています。NPO、企業、行政、大学などジャンルの違う人たちがメンバーにいることを強みに役割を分担しながら持続可能な仕組みづくりを目指していきます。



砂場を子どもたちの交流の場に

瀬戸内国際芸術祭スタディツアープロジェクト レポート

瀬戸芸2022を 高校生、大学生、大人の学びの場に

江森真矢子（一般社団法人まなびと代表理事）

2010年に始まった瀬戸内国際芸術祭（瀬戸芸）は今年、5回目の開催を迎えています。瀬戸内の島々で、アーティストたちが土地に根ざした芸術作品を制作し、その場所でしかできない鑑賞体験をする。作品だけではなく風景や人、食との出会い全てが特別な体験となる芸術祭は、訪れる人々のみならず開催地域の人々をも活気づけています。「在るものを活かし、無いものを創る」を「コンセプトのひとつとして活動してきた瀬戸芸から、私たちが学べることは何か？」また、岡山県内にどういった波及効果をもたらすことができるのでしょうか。福武教育文化振興財団は今年、高校生、大学生、大人が瀬戸芸から学ぶプログラムを企画しました。

自指すは、「在るものを活かし、無いものを創る」チャレンジを通じて、参加者それぞれが、それぞれの持ち場で新しい価値を創造する力をつけることです。プログラムは高校生向け、大学生向け、一般社会人向けの3つ。瀬戸芸を支えるパートナー「こえび隊」による、アート鑑賞だけではないスタディツアーやツアーアーを企画する大人向けプログラムが春からスタートしています。続いては夏の高校生向けプログラム。同じく瀬戸芸を訪れ、学んだことを発表します。最後は大人のためのプログラム。スタディツアード学んだことをヒントに、自分の関わる地域でのイベントやツアーアーを企画する予定です。現地での体験とオンラインでのワークを組み合わせたプログラムの詳細を今後、誌上レポートしていきます。

各プログラムのディレクターからヒトコト



見えにくい価値や課題を探究

- 大学生のための瀬戸芸課題探究型プログラム担当
成清仁士（ノートルダム清心女子大学准教授）

瀬戸内国際芸術祭やその舞台となる島々について学び、参加者それぞれが見えにくい価値や課題を探究するプログラムです。オンライン事前学習や現地での学び、気づきをもとに、「在るものを活かし、無いものを創る」を地域で実践できる人材育成につながることを狙っています。身近な地域の価値あるいは問題には気づきにくいものですが、それに関わる経緯や関係者の想いへの関心も含めて、参加者の視野を広げる機会になることを期待しています。



考えることを言葉にできるように

- 高校生のためのアートと交流で視野を広げるプログラム担当
室貴由輝（岡山県教育委員会高校魅力化推進室 室長）

瀬戸内海の豊かな自然とそれぞれの島の歴史と文化、そこに現れたアートから、何を思い、なぜそう思うのかを考え、言葉にするプログラムです。自分の思考を言語化し、そこからさらに発想を膨らませることにより、新しい価値を生み出すことにつながります。「在るものを活かし、無いものを創る」をテーマに、予測できない未来に新しい価値を創ることができる可能性を感じるはず。島で起きる様々な変化を楽しみにしています。



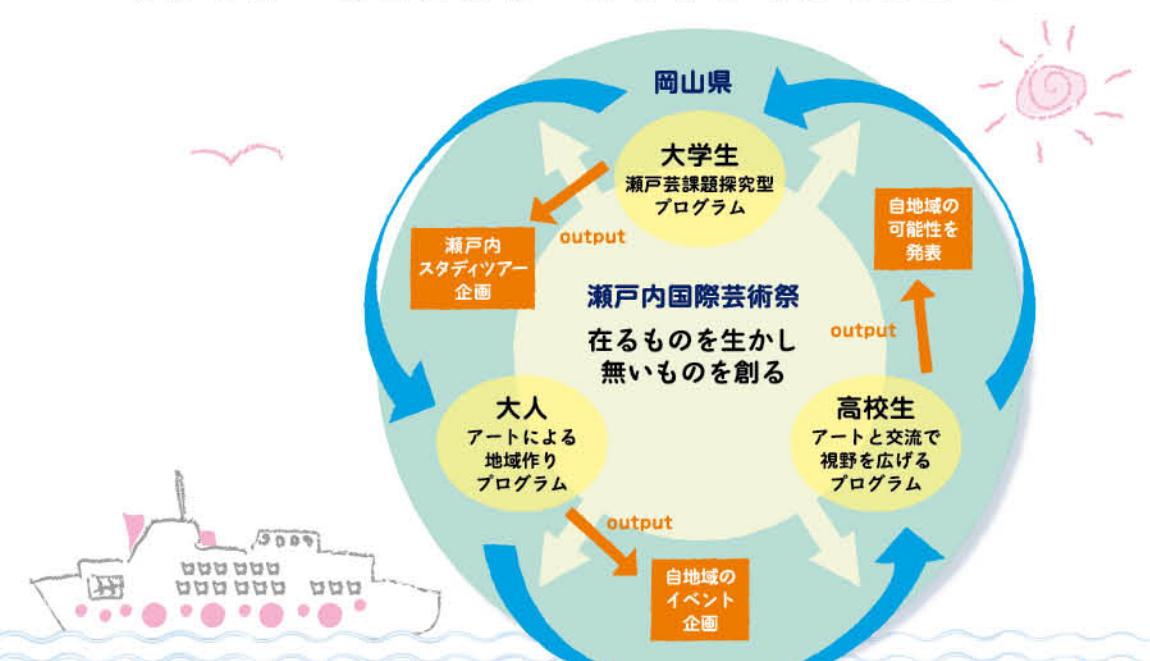
生み出される価値に期待

- 大人のためのアートによる地域づくりプログラム担当
江森真矢子（一般社団法人まなびと 代表理事）

住む場所も年齢もさまざまな大人たちが、瀬戸内国際芸術祭に学び、自分の地域でできるイベントやツアーアーを考えるシリーズ最後の講座。瀬戸芸を起点とする学びが縦にも横にも広がり、各地域に還元されていくイメージでプログラムを組み立てています。岡山県内のそれぞれの場所で、在るものを活かし新しい価値が生み出されることを期待すると同時に、参加者同士の交流からも何かが生まれるのではないかと思っています。



豊島の産業廃棄物不法投棄の現場・処分地の見学や島のお母さんと交流する大学生たち



対象	時期	プログラム名	視察先(予定)
大学生	春	瀬戸芸課題探究型プログラム	豊島・直島
高校生	夏	アートと交流で視野を広げるプログラム	犬島
大人	秋	アートによる地域づくりプログラム	男木島・女木島



「世界一あつたかい缶詰 コノヒトカンが 誰かのお腹と心を満たすまで」

文・三好千尋
／コノヒトカンプロジェクト 代表／ネイリスト

新型コロナウイルスの影響で、ネイルサロンを経営している私は、キャンセルが相次ぎ大打撃を受けていました。知り合いの飲食店のお店も来店者数が激減し、「今日のお客さんは一組しか来なかつた……」という声を聴き、私はいてもたってもいられなくなりました。そこで、困っている飲食店を十数店舗集めて、地域コミュニティー型お弁当販売「倉敷居酒屋マルシェ」を開催。来店者の少なくなった飲食店や、外食ができない地域の人達に、元気になつてもらいたいという想いからでした。

その時、まだ食べられるのに売れ残ってしまうお弁当。これを食事に困っている人へ届けられないかな?と思うようになつたのです。

コロナの影響を強く受けている深刻な貧困家庭。また、一方で飲食店、観光業が衰退し、食材が余り、廃棄に困っている企業。「貧困問題」と「フードロス」、この2つの問題を解決するため「コノヒトカンプロジェクト」を立ち上げました。

廃棄されてしまう前の食材を買い取り、岡山県の料理長の方々にレシピ開発をお願いし、長期保存が可能で手軽に食べられる『コノヒトカン』という缶詰を作りました。肉缶と魚缶の2種類あります。子ども達と一緒に考え、学び、明るい未来が描ける社会を実現していくことを目標にしています。

また、「コノヒトカン」の出来上がった経緯、ストーリーを子ども食堂や児童養護施設、学校の子ども達に、授業やイベントを通して伝える事で、フードロス問題や貧困問題を考えるきっかけ作りになります。子ども達と一緒に考え、心を満たすまで、私たちは活動を続けてまいります。



小学生にコノヒトカンの活動を伝える授業

「SDGsを子どもたちと考える実験するための活動～缶詰から始まる物語～」

貧困とフードロス問題の課題解決に取り組む「コノヒトカンプロジェクト」。廃棄される食材を缶詰に加工し、SDGsに取り組む企業に支援を募り、子ども食堂やフードバンクに缶詰を届ける活動。助成金では、子どもたちに農業体験や食育活動を実施する。



活動をはじめた理由



「備前若者ミライプロジェクト」
2021年10月にオープンさせた10代の居場所(放課後スペースINBase)を主な拠点として、小学校中学校年～中高生を中心とする10代の子どもたちが多様な大人と出会ったり、なにか特別な体験を地域や専門家と一緒に取り組むような機会を提供したり、あるいは子どもたち自身がなにか考えて企画・実施するのを支援したりする。

いろいろな生き方・体験・選択肢を見て、学んで感じて、それを材料に自分にとつての幸せを考える。ひとつやなづてもいい。それくらいのゆるさで、過程を楽しむ気楽さをもって、子どもたちの幸せと自分にとっての幸せをこれからも探し続けていけたらと思います。



留学生と里山で交流する子どもたち

「幸せを考え、感じる場づくり」

文・守谷克文

／特定非営利活動法人 f.salon 代表執行役

そもそも僕が大阪から地方移住を決めたのは、自分の目に見える範囲の世界を豊かにして、その中で暮らしたいという想いがあったからです。いわゆる名門の中高一貫校から名門大学に進学したので、周りはずっと日本とか世界とかを見ている人が多かったですし、僕自身も流されるままにそうでした。

しかし改めて社会にでる時期が迫ってきて自分の生き方とが幸せを考えたとき、顔も名前もしらない広い範囲の大勢の人たちのために何かを為す人生は、社会的に意義深いのは確かだけど、それが本当に自分を幸せにしてくれるのだろうか、と思つてしましました。

それよりも自分の日々の暮らしの中に確かに存在する顔の見えるひとりひとりのためにかをして感謝されて、それが自分の生活の豊かさに還元される生き方のほうが、幸せを感じられるような気がしました。

そんな風に考えて大阪からほど近い備前市に移住して、始めたのが「f.salon(エフサロン)」です。だから、f.salonの活動自体も、「幸せってなんだろう」というのを子どもたちと一緒に探すというのが根幹にありますし、僕自身そもそも教育の目的はそこだと思っています。



えられる範囲の世界を豊かにして、その中で暮らしたいという想いがあったからです。いわゆる名門の中高一貫校から名門大学に進学したので、周りはずっと日本とか世界とかを見ている人が多かったですし、僕自身も流されるままにそうでした。

しかし改めて社会にでる時期が迫ってきて自分の生き方とが幸せを考えたとき、顔も名前もしらない広い範囲の大勢の人たちのために何かを為す人生は、社会的に意義深いのは確かだけど、それが本当に自分を幸せにしてくれるのだろうか、と思つてしましました。

それよりも自分の日々の暮らしの中に確かに存在する顔の見えるひとりひとりのためにかをして感謝されて、それが自分の生活の豊かさに還元される生き方のほうが、幸せを感じられるような気がしました。

そんな風に考えて大阪からほど近い備前市に移住して、始めたのが「f.salon(エフサロン)」です。だから、f.salonの活動自体も、「幸せってなんだろう」というのを子どもたちと一緒に探すというのが根幹にありますし、僕自身そもそも教育の目的はそこだと思っています。

それよりも自分の日々の暮らしの中に確かに存在する顔の見えるひとりひとりのためにかをして感謝されて、それが自分の生活の豊かさに還元される生き方のほうが、幸せを感じられるような気がしました。



FACE

一般社団法人moko'a(もこあ)代表理事

中村 舞子さん

コミニティが編むつながりは、
まちの活気と経済を生み出す

浅口市金光町大谷の門前町にある「大谷みかけスクエア」。レンタルスペースとして地域の居場所となり、チャレンジショットとしてまちに新たなサービスを生み出していきます。経済の循環の種をつくり、地域をつなぐハブとなり、まちの人の協働や学びも生み出すこの場所を運営する沖村さんにお話を伺ってきました。(取材・文／森分志学)

沖村さんは東京の専門学校で建築デザインを学び、編入学した大学を中退後、岐阜県で間伐材の活用、三重県で自然農、静岡県でレンタルスペース、神奈川県で古民家レストランなどと、様々な地域

森分志学 moriwake shigaku

NPO法人だっぴ 代表理事

1990年、岡山県倉敷市生まれ。大学3年生の頃、自分が受けってきた高校の進路指導に違和感をもつ。それをきっかけに、高校が大人と出会い、将来を考える対話の場を高校生とともににつくる。卒業後は、教育系の広告代理店に勤務。2017年、NPO法人だっぴの理事・事務局長として岡山にリターン。岡山の中高生・大学生を対象に、キャリア教育プログラム「中学校・高校生だっぴ」を岡山県内外12市町村20校以上の学校で展開。2020年より現職。

沖村舞子 okimura maiko
一般社団法人 moko'a 代表理事

1988年 横本昌生主宰 北海道育友 幼少期

2013年、高齢化社会の課題解決に取り組むNPO法人として、山に囲まれ育てたことから昔ながらの暮らしをしたいと、専門・大学と建築を学び、古民家再生の活動をフリーランスとして行ってきた。2016年より3年間浅口市地域おこし協力隊として浅口市に所属し、地域コミュニティ担当として、地域運営組織形成支援にかかる住民アンケートの企画・実施の支援や、各地区の課題解決にむけた取り組み支援を行ってきた。任期終了後も継続して活動ができるよう一般社団法人を立ち上げ、現在も浅口市で活動中。

加えて、オープン1ヶ月後に映画『とんび』のロケ地に選ばれたことも好転の要因でした。映画が公開されると、観光客が商店街にやってくることで、「自分たちのまちをもっとよくしたい」と、まちに活気と協働が生まれました。外の人たちが訪れるごとに頑張る気力が湧いたと話してくれる地域の方もいらっしゃるそうです。あのとき、町並み保全のためにこの建物を残さなければ、この展開は当然ありませんでした。今後は、チャレンジショップに出店したい人を増やし、店舗を持ちたいとなつたとき、市内の空き店舗や空き家を提供できるよう準備を進めています。また、手つかずの2階は、子どもたちのために使える場所にしたいと、まちの経済と学びの種をつくる拠点としての期待もますます高まります。

また、チャレンジショップの機能もあり、スイーツやハンバーグ、アーカセサリーなど、自分の商品を出店できます。出店者としては、お客様さんが来るか気になるポイントですが、とある珈琲屋さんの出店で人が集まり出したことを皮切りに、出店者も集まるように。今では浅口市外からも出店希望があり、出店枠は毎月ほぼ埋まっています。チャレンジショップは、地域の人たちと異なる他者の接点をつくる意味でも影響を与えました。地域の外からやってくる出店者たちが並べる商品や駆使する広報ツールなどを見て、地域の人たちが刺激を受けた結果、今では自分たちでまちの情報をInstagramで発信したりしています。

の取り組みに関わりました。2016年、地域おこし協力隊として岡山に移住。住民主体でまちをつくっていく「地域チャレンジ」を企画し、移動サービスや空き家活用など、まちの人たちのチャレンジと共にかたちにしていきました。協力隊を卒業した現在は、一般社団法人moko'aの代表理事を務めています。

moko'aが運営する大谷みかげスクエアは、「元々は金正館」という旅館の食堂でした。建物が取り壊されることを聞き、「壊すならくわださい!」と、沖村さんが譲り受けました。地域の人たちと改修ワークショップを行い、そこで要望を聞くと、カフェなどの居場所を求める声が多く、コミュニティ&レンタルスペースとして2020年8月にオープンしました。地域の人たちが料理をつくったり、プロレス鑑賞会を開催したり、交流や趣味ができるレンタルスペースとなつています。

マインドマップの基本の「き」を学ぶ
—「考える」ツールを手に入れませんか?

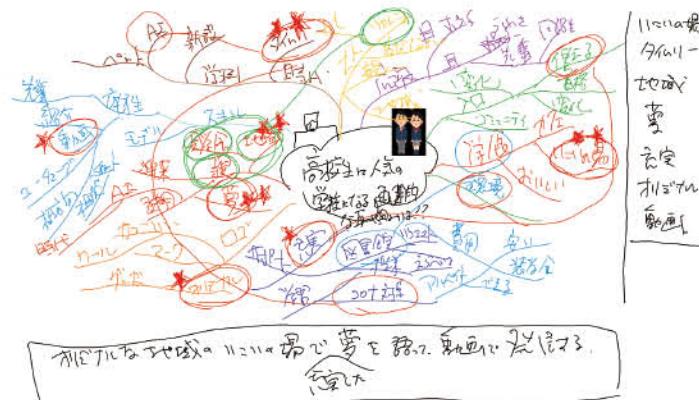
vol.14

and F 教室

体验記

開催日:2022年1月15日

「マインドマップの基本の『き』を学ぶ」では、多様な意見を整理するのに役立つマインドマップについて学びました。



参加者から出たキーワードを、坂ノトさんがリアルタイムで書きこんで作ったマインドマップ

A portrait of a man with dark hair, wearing a white shirt and a dark blue blazer, standing in front of a window with vertical wooden blinds. He is looking slightly to his left.

講師：坂ノ上博史氏
一般社団法 高梁川流域学校
代表理事

1978年倉敷市生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。在学中よりSOHO & テレワークの調査研究と共同事業開発に取り組み、経営コンサル会社取締役を経て、独立。300社を超える経営指導と30社を超える創業支援を担う一方、自らも地元・倉敷を拠点に、サテライトオフィス「住吉町の家・分福」や、「高梁川流域学校」等のプロジェクトを手掛けける。



タケシマ レイコ
TAKESHIMA Reiko

グラフィックデザイナー
／イラストレーター

岡山県岡山市生まれ。高校時代から5年間油彩画を学ぶ。女子美術大学芸術学部芸術学科卒。エディトリアルデザイナー羽良多平吉に師事。氏から「デザインと編集は、作り手の生活と直結している」ことを学ぶ。帰岡後独立。届けたいことを、届けたい相手に、心を込めて伝える贈り物のようなビジュアルコミュニケーションを目指し、県内外で活動中。また、「生活芸術」と名付けた暮らしに即した制作活動もしている。『FUEKI vol.60』からデザインとイラストレーションを担当。倉敷市立短期大学非常勤講師。

ここは玉野市宇野の商店街にある木造建築。半世紀ほど病院として使用された後、四十年近くそのままになっていたところ、瀬戸内国際芸術祭2022の会場の一つで、ムニール・ファトゥミが二十年ほど前パリ郊外で撮影した破壊される建築物の映像と写真が展示されている。

ここで目についたのが表紙絵の照明で、映像作品の前にぶら下がっていた。職人の手仕事を感じさせる少し波打ったガラスのシェードにもゆらゆらと作品が映り込み、背後には道具と思しきバネルに、照明型の影の部分だけくり抜かれた映像が映し出されている。作品を遮るように物がある。美術館ではまず目にしない光景だ。作品は、他の部屋でも空間と呼応しながら点在している。凸凹した壁や天井、黒光りする床に投影されたり、机や床に置かれた薄みある古いパソコンから流れていたりする。必然的に、建築や調度品が視界に入る。

約百年前に建てられた建築は、無垢の木材がふんだんに使われ、凝った天井装飾も見られる美しい空間だ。残された品々からもかつてここに居た人々の気配が漂う。その場所に破壊される建築物の映像作品と写真があることで、空間が纏う時間と人々の気配はより一層鋭敏に浮き立つようだった。もし同作品を美術館で見たら全く別の感覚を抱くに違いない。場所と作品が密接な関係性を持つことでしか生まれない濃密な体験。それは他の瀬戸内国際芸術祭の作品を鑑賞する際にも感じられるもので、深い内省を促す。



照らされる照明

いつもなら、何かを照らすはずの照明に、光が当たっている。何かを照らして影を作るはずの照明に、影が生まれている。

ここは玉野市宇野の商店街にある木造建築。半世紀ほど病院として使用された後、四十年近くそのままになっていたところ、瀬戸内国際芸術祭2022の会場の一つで、ムニール・

Editor's Column

■先日、哲学とは無縁の私が「哲学ウォーク」へ参加する機会があり、得難い体験をしてきました。「哲学ウォーク」とは、もともとは哲学者が考案した哲学プラクティスのメソッドのひとつで、教育やコンサルティングにも活用されているそうです。■この日、長島愛生園に集まつた8名は、一人の案内人(兼ファシリテーター)引率のもと、そのルールに則り、島内を歩きながら哲学的な思索を深めた時間を共有しました。■最初にクジを引いて、参加者はひとつの「言葉」(一人ひとり別)を手に入れます。私のクジは「敬意とは、『面倒なことをしなさい』ということを意味する。(バスカル)」でした。う~ん、何のことだろうと考えながら、各人それぞれの言葉を考えながら、全員一緒に黙って歩きます。そして、クジの言葉に関連すると思ったスポットを見つかったら、その場へ立ち止まり、クジの言葉と、その場所を選んだ理由を他のメンバー全員に語ります。それに対して、他のメンバーは、一人ひとつずつ選んだ理由を質問し、止まった人は、その中からひとつの質問を選びます。そして、再び黙って歩き始め、スポットを選んだ人は、選んだ質問とその答えを考えながら、まだの人はスポットを探しながら。これを全員が終わるまで繰り返し、最後に各人が質問の答えと感想を語り合いながら、全員で思索の歩みを振り返ります。■詳細を省いているので、伝えるのは難しいのですが、普段使っていない脳のエリアがにわかに動き出し、アート作品を見ながらの対話型鑑賞に近いものを感じました。「黙ってひたすら考えながら歩く時間」は実に貴重で、哲学とアートは、どこかでつながっていることを体感した一日となりました。■瀬戸内国際芸術祭2022は、新型コロナウィルスのためか来訪者も前回より少なく、ゆったりと鑑賞できるようですので、哲学者の言葉を考えながら、黙って作品を見て回ってみようと思った次第です。(O)



人づくり、地域づくりを応援します

福武教育文化振興財団



福武教育文化振興財団
ウェブサイト



コミュニケーション・
マガジン
and F|アンドエフ

〒700-0806 岡山市北区広瀬町1番5号

株式会社ベネッセコーポレーション広瀬町社屋

TEL:086-221-5254 FAX:086-232-3190

URL:<http://www.fukutake.or.jp/>

E-MAIL:eczaidan@fukutake.or.jp

機関誌 不易

FUEKI vol.78 2022.5.25

編集・発行:公益財団法人福武教育文化振興財団

制作:株式会社吉備人

デザイン・イラストレーション:タケシマレイコ

印刷:研精堂印刷株式会社